幼兒教育

第十九卷　第七號
大正八年七月一日發行

目次

近刊の子供繪雜誌に就て……倉橋惣三
夏の病氣と幼兒の食物……青木醇一
桃太郎、かるたに就て……米山えん
表情遊戯について……土川五郎
フレーベルの日に(二)……江戸堀幼稚園
雜報……
幼稚園教育と新哲學……谷本富

日本幼稚園協會

會告

○會費御拂ひ込みの節は御名前は初め御入會の時の御名前と御同一になし下され度く、假令ば初め幼稚園名にて御入會、後、個人の御名前にて會費御拂込み等のことなき樣必ず願上候整理上甚だ煩雜致し候につき右特に御注意願候

○會費未納は會計整理上甚だ困難致候に付確實に御納付下され度向後萬一御不納久しきに亘り候場合は乍遺憾雜誌發送を停止可致候間左樣御含み置願候

○會員諸君にて御轉居等の節は至急御一報願上候

○萬一本誌不著等のこと有之候折は直に御一報煩し度候

本誌定價

一冊　郵税共金拾六錢　六冊前金郵税共九拾錢
拾二冊同金壹圓八拾錢　郵券代用一割增

購讀申込

本誌購讀御希望の方は右定價表により振替貯金にて御拂ひ込み下さい。直に送本致します。（振替口座東京一七二六六番）

大正八年六月廿八日印刷納本
大正八年七月一日發行

東京府豐多摩郡代々幡村大字代々木山谷一二四
編輯兼發行者　倉橋惣三

東京市本所區番場町四番地
印刷者　守岡功

東京市本所區番場町四番地
印刷所　凸版印刷株式會社本所分工場

東京女子高等師範學校附屬幼稚園內
發行所　日本幼稚園協會

幼兒教育

第十九卷
第七號

大正八年七月一日發行

近刊の子供繪雜誌に就て

――日本幼稚園協會六月常會の講演――

倉橋惣三

子供の繪雜誌は幼兒教育上近頃の問題であると思ひます。子供に關する實際問題として、此位急激に社會問題になつたものは少ない、むしろ、實際の方が種々の理論を通りこして、行き過ぎてしまつた樣な感があります。私の見當をつけた所だけでも三十四五種はありませう。その何れも毎月種々の裝をこらして本屋の店頭をかざるので、一方編輯者の側になつて見れば實に苦心を凝らすのであります。これが子供の手に渡つて、しばらくすると反古になつてしまふ。趣味の高い、又教育眼のある大人はたゞ一と口に、「子供の雜誌はいけない」と云ひ捨てる。そして其編者の苦心はあまり顧られないのであります。それが大人のよむ文學小說の樣なものであれば、一寸したものでも、すぐ翌月の文壇の批評の的になり、話題にのぼり苦心甲斐があるのですがこの幼年雜誌ばかりは本屋から子供の手にうつり、そのまま玩具箱から玩具箱へ葬り去られてしまふ、誰かが其苦心を認めて之を批判し、之を社會の問題とする樣になれば、誠によいので、私自身も機會ある毎に新聞や

雜誌の人々にこれを勸めて居るのですがなか〳〵實行はむづかしい樣です、もつとも元來これが一つの營業品であるため賞讃する方はよいとしても缺點を公表すると云ふ事になると他を妨害すると云ふ心配がある事でせう。

兎に角、毎月多數發行されるこれらの繪雜誌が何等批判も與へられず、顧られないで居ると云ふ事は多大の苦心を拂ふ編輯者の側から云つても讀者たる子供の側から云つても本意ない事であると思ひます。

相手が子供でなく我々大人のよむ雜誌に於ては實際上この批判は最も自然に行はれてゐる、卽ち各々の雜誌は店頭に飾られて讀者自身の批評に待つのであります。よい雜誌はよく賣れ然らざるものは殘つてしまふ、この自然陶汰、社會陶汰の結果から價値少ないものは勢ひ廢刊と云ふ運命に遭遇する、これが一方出版者側には、致命的な打擊ですが、しかしこれが一番よい、一番自然な批評なのであります。

ところが、幼年雜誌に於ては、讀者たる子供自身にこの批判力がなく、適當であつてもなくても子供はたゞ目先きの違つたものをよろこびますし又他面、營業上から言つても、小資本で經營が出來るために、左程どし〳〵賣れず大きな商賣にならずとも、廢刊に至らずどうにか續けて行けると云ふ事もある。そのために、近頃では、我々が幼兒に對する要求から見て隨分不適當だと思はれるものが無遠慮に刊行されて居り、また折角よく苦心したものでも、一寸した編輯者のあやまりから思ひがけない失敗をあらはして居る繪雜誌が少くないのであります。

扨私はここに近刊卽ち六月號と七月號の繪雜誌數十種に基いて私の氣持の許される範圍で無遠慮に批評して見やうと思ふ。それには

○繪雜誌とは如何なるものか

と云ふ事から申して置きます。私の見解では、幼年繪雜誌は、玩具(おもちや)とおはなしとの一緒になつたものと考へられる、從つて、おはなしに對する教育的要求と、玩具に對する教育的要求とのこの二方面から批評を致さねばなりません、雜誌の方から云へば二重の影響を子供に與へて居る譯ですから其の及ぼす結果については余程重大に考へねばなりません。

おはなしと云つても目で見るおはなしともなり又其の繪を靜かに見て、母親に讀んでもらつて居る時には純然たるおはなしともなります、玩具として取扱ふ方面は主として本の形、裝釘、紙質、組合せ、印刷の仕方、色の配合などが關係するので、ことに近來は其內容は非常に玩具的となり、ことにある時期には丁度カラクリの樣な仕かけに變繪(かはりえ)、ひらき繪などが工夫をこらされて、平面な紙をひろげると、其の中に立體的のものが疊込まれてあつたり又貼付けてある繪をのばすとこゝに立體の舞臺面があらはれるなど、誠にこの傾向が盛でした、ごく最近はこれが漸く衰へた樣に思はれます。それは、一方にこの方面に相當に工夫をこらして其行詰つた狀態になつたのであるか、或は嘗つて私も耳にした事ですが、出版者相互の制裁であまり變つた事はすまいと云ふ申合せのためでもありませう。

また繪雜誌の玩具的である事は、必ず繪附錄がついて居る事です、編輯者の苦心は本文よりもこの附錄にあるのでこれによつて小さな讀者をいかに滿足させ樣かと工夫するので其多くは剪り紙又は種々の手工附錄であります。又近來は、この手工附錄を雜誌の本文の中に入れてしまつて、其の裏の頁には獨立した繪なり話なりがあるにもかゝはらず、雜誌そのものを剪つてしまふ樣に出來てゐる。これは一冊の本、又續いた話としては出來得ない事であるので實に繪雜誌が玩具として用ひられて居るためであつて、以前は書籍(ブック)と繪双紙(ペーパー、トーイス)と

が別々にあつたのであるが近來の繪雜誌はこの兩方を合したものを作らんとする傾向であります。

○繪雜誌の玩具的方面の問題

先づ以上の如き玩具性があるために、我々の眼から見ると誠に無駄な骨折と思ふ事に編輯者が苦心して居る樣である、寧ろ邪魔な、また雜誌としての體裁を全く壞してしまつて下品なものにしてまで餘計な工夫をする、これは一面から云つて一つのものが本でもあり玩具でもありと云ふ二重の用途を充たす上からは一段の發達かもしれませんが、しかし其苦心の結果、玩具として成功する事が實際上なか〳〵困難な事です。一枚一枚の繪のこしらへ方だけでも其の內容を適當にえらぶには可成の苦心を要するものであるのに、これがひらき繪、變り繪となるために更に苦勞する、其の苦勞のためにかへつて失敗する事も少くない、內容の性質上、ひらき繪としなければならないもの例へば次々と人物がくり出されて來る話など（實例揭示）ではこのひらき繪、變り繪は適當であるがかゝる事は先づ少くて多くの場合にその內容が全く無意味な事、又はむしろ有害な事に陷つてまでひらき繪のためにとらはれて居る事があります。

一體一つのものが次々に變化して行くと云ふ事は子供に時間的の印象を與へるもので、隨つてこれは論理的に子供の頭がはたらくわけでありますが一頁から次の頁に行くのに全然變化してしまへばその二つの頁の間に論理的の關係はなくてよいのでありますが、普通のかはり繪に見るごとく、一つの繪の一部分が、そのまゝ殘つてその他の部分が變化する場合には、どうしても論理的にならざるを得ません。しかるに、變繪に於て、不意に妙なもの——殘つて居る繪と關係のつかぬ——が出て來たのでは反て一種低級な興味は起るとしても子供の論理的方面の作用を損ふ事が少くない。（實例揭示）これはこの六、七月の繪雜誌に實に多く

見られます。折角他の方面に編輯者が苦心をこらして子供に適當な内容を撰んでも變り繪にしやうと思ふ事のために、思ひがけない事をしてしまふ事は誠に惜しい事で、このひらき繪、變り繪のために子供の頭腦がどう訓練されて行くかは編輯者として充分考へなければならない問題であります一層垢ぬけてしまつて、同じひらき繪でも二頁の繪面が四頁にひらく、その初めの二頁のものと之を兩方へひらいた四頁の内容とは全く無關係でしかも四頁つゞきの所には之を用ひなければ出きぬ材料をとつてあるもの(實例掲示)などは上に云つた樣な論理上の矛盾はおこる心配はない、しかし無理にかうひらく樣につくらねばならぬと云ふ事は大して必要がありますまい。

要するに、あまり此の繪雜誌の玩具性に重きをおくために、大切な内容が支配され、損はれてしまふ傾向は注意せねばならぬ點であると思ひます。

○印刷の問題

繪雜誌の玩具性に附隨しておこる問題は、其印刷で、これが單純に一つの話、其内容の徹底をはかるためよりも、彩色の方面から支配されてゐます。甚しきは内容のための彩色印刷でなしに、色を彩けるために内容をえらんで來る事まで起つて來ます。尤も編輯者の立場から考へれば低廉な定價で毎月出す事であるから高價な繪具は用ひられず隨つて其の色が我々大人の藝術的の見地から見てきたないと云ふ事があつてもそれは攻擊する事は出來ません、けれども、いかにわるい繪具を用ふるにしても、繪雜誌は其の内容を讀むものであり又其の色を見るものであると云ふ事に意を用ひこの目的に重きを置くならば、たゝ色をベタ〳〵と塗ると云ふ事をせずに、も少し、上品にする事が出來るであらうと思はれます。

ことに印刷の方から云へば大抵の雜誌は四度刷

り(四種の色を用ふ)が多い、しかも其の四色をまた種々にかけ合せて多くの中間色を出し、この色のかけ合せを自慢する樣になり必要もない所まで色をぬる事が起つて來ます。これを西洋で子供に與へるものと比べて見ますと實に大變な差があります。西洋では、一つの定めた內容の目的の方から色の方を支配して行くので必要な所に必要な色だけを用ひて居ります、例へば初夏の野に、女の子が遊んでゐる、すると其の女の子のリボンに赤が必要ならば其のリボンの所だけそれも極く一點の赤を用ふる、印刷上の費用から行つても手間から云つても全頁を彩るも一點に着色するも全く同じでありますが、其の繪の主意目的を重ずる所から惜しみなく彩色しないのであります。ところが我が國の、繪雜誌は實に惜しみなく彩色するのでそのために、しつこく穢く、色と色との配合から來る美感などが實にかけてゐます。中には淡泊(あつさり)と彩色しておるのもないではありませんが大抵、現今の繪雜誌が陷つてゐる通弊はここにあるとも思はれます。

この彩色の濫用は、遂には文字を印刷する時にその地までも濃い色でぬりつぶすと云ふ事にまでなつて來ます、字を入れる以上、その文字はよく讀めるように、はつきりと印刷すべきもので、ことに子供自身がよんだり、時には祖父母がよくお相手になつてよむことですから、文字の鮮明と云ふ事は子供の雜誌としては、かくべからざる要點であるのに、これさへも失つてしまふ事は全く困る。ことに甚しきは其文字にまで繪具を用ひて、色の地の上に色の文字をしかも小さな活字であらはしてゐる、ここに至つては全く子供によませるための文字のその目的を全く無視して居ると云はねばなりません。

○おはなしの方面の問題

繪雜誌におけるおはなしは大體二つにわけて

（一）おはなしを主として繪は挿繪として用ひられて居るもの、（二）繪が主となつて居るもの、の兩方面に於て考へる事が出來ると思ひます。

一、おはなしを主としたるもの、

この方面では先づ一概に云へばよいおはなしが少くて內容が貧弱であると云ふ事であります。尤も編輯者の側になつて考へれば、讀ませるためには字を大きくしなければならず、且この種のおはなしでは繪は挿繪に過ぎないので、彩色をあまり用ひられずこれで頁を多くとつてしまへば全體が淋しくなつてしまふと言ふ所から話を短かくしやうとする、そのためにつまらないものになつてしまふのでありませうが兎に角、その內容は誠に貧弱です。扨其の內容を見ると大體次の四種に分けられます。

（イ）外國お伽噺の飜譯……これは勿論外國の名高いものを撰んで來るのでありませうが、其の選ばれる材料が少ないためか、どうも同じ事が諸々に持ち廻され繰返される事が多い、毎月出る三十余種の幼年繪雜誌に其の材料で飜譯からなるものは誠に似たり寄つたりのものが掲載される、またいかにその原作はよいとしてもこれをごく短いものに改作してしまふために、原作の價値を尊重してゐる餘裕がなく、同じ材料をとつて、ポツリ〳〵と一少部分の改作が施される。そして少しづゝ違つたものとなつてあらはれて來る、どれが本當か見當がつかないのであります。そこでこれを受入れる子供はどうであろうか、例へばここに同じ材料からつくりかへられた（飜譯して）五種の話を子供がいろ〳〵の繪雜誌で讀む、その時全く別々の五つの話として受取る事が出來ればよいけれども元來が一つの原作から來て居る事であるから其の原作の臭其調子が何れの話にも殘つてゐるので子供の頭には全く別々のものとしては取扱かはれない、こゝに子供の頭を混亂させる事になるどれが本當であらうと云ふ疑問、したがつてそこに一種

のおちつきのない氣持が起つて來ませう。

一體外國の有名なはなしは一つのまとまつた藝術品であるので、これを自由勝手に分解し取捨する事はそも〳〵失敗の因で、ことに部分的に改竄する事はよくない事と思ひます。

(ロ)編輯者の作になるはなし……これを更にくはしく分ければ(A)堅苦しきもの卽ち敎訓的のもの、(B)單純なる興味本位のもの、(C)作者が子供の世界を寫生せるもの、卽ち事實を事實として話して居るもの、――となります。

(A) 此の第一種のものは謂ゆる寓話的で勸善懲惡の敎をするもので子供の讀物としては第一流のものと云ふ事は出來ません、中には子供の生活を實際にえがいて、それが自然に敎訓的の結果になる事もないではありますまいがこの種の話の陷りやすい缺點は、どうも敎訓を無理に押しつける嫌があると云ふ事です、何でもない事を敎訓的につくり上げるので甚しきは話の筋には無關係な結びを持つて來てまで敎訓的にする、多くの場合にその結びには神樣が出たり超人的な老翁などが出たりする、これは六月、七月號にも多いのであります、神樣や白髮の老人や、かかる假定的のものも、之が神祕的な氣分を養ふと云ふ方面に用ふれば、必ずしもわるくはないのでありますが、ただ敎訓的に話を片づけて行かうとするために用ふるので實に單調なものとなつてしまふのであります

(B) これは(A)の敎訓的のものに比べれば、自然的で無理が少ないのでありますが、しかし、ただ子供を喜ばしたりおどしたりして彼等の瞬間的の興味を買ふうとするために、ひどく下品なものに陷つてしまふ、眞の滑稽味ではなくて、むしろ奇怪不思議な興味をねらつておる樣で、全く何の事かわけのわからない事でただ子供を可笑がらせ樣とする傾向があります。今少し上品に、今少し其の興味の中心となる點に注意を拂つたらどうかと思はれます。

（C）この種の話卽ち寫實的のやりかたは餘程發達したものと思ひます。それ故これは上手にすればなか〳〵面白いので例へば六月號の某雜誌に「傘から喧嘩」と云ふ話がありますが、これなどは餘程おもしろい寫實であると思ひます。新しい大膽な試みでこの種の話は充分骨を折り、よい材料をとれば、つくり話にくらべて一層サラ〳〵と子供の興味に合する上によいものであると思ひます。

しかし以上何れにしても、も少しよい話が出さうである、どうも貧弱であると云ふ感をまぬかれません。

二、繪を主としたるもの

これは先づ繪をかいてそれを說明する種類のお話でこれがまた實際上なか〳〵難しいのであります。これも說明の仕方に三種あると思ひます。

（A）繪にかいてあるものを、そつくりそのまゝもう一度文字であらはす仕方で、例へば花の繪に「コレハハナデアリマス」とか二羽の鳥の飛んで居る繪に「トリガ二羽トンデイマス」とかくのであります。

（B）繪にかいてあるものゝ心持になつて說明をかくので、例へば汗を拭いてゐる子供の繪に「オヽ暑イ」とかく、卽ち內容をそこに出して來るのであります、これは（A）の方法に比してたしかに進步して居ります、卽ち繪のあらはす情的の心持を主とするので、この心持を一層よくあらはすためにこれが節のついた歌となつて來ます、これを極端に迄取扱つて一つ〳〵の繪に各一首づゝ歌をかいて居るのが近刊の繪雜誌に見えて居ります。

繪の內容、其心持をあらはすために歌を用ふるならばよいのですがこれを（A）の場合で用ひて情の少しもはいつてゐない單なる說明（例へは、これは花ですと云ふ如き）を歌でして居るのがありますが、かうなると讀んで寧ろおかしい感がします。

（C）繪は靜的のもので瞬間だけしかあらはしませんから、その繪の過去と未來とを言葉であらは

すためにおはなしが用ひられます、例へば野原に立つて居る子供を大きくかいて、その子は今何處から來て、何處へ行くと云ふことをかくのであります。この方法は繪とその說明とが合して一つのおはなしになると考へられます。

以上三種の說明の仕方の大體を通覽すれば、一番必要でもあり、又說明として一番當然あり得べき形は(C)の方法であります。(B)に於てはその心持の說明が餘程暗示的(ザジェスティーブ)である事が大切であまり詳細に限定的に其の心持の說明してしまふと、子供が其の繪によつて折角よびおこされた子供自身の心持を侵害する怖れがあります。(A)の仕方は全然不必要な事です。

繪の說明と云ふ方面から考へると、今少し繪とはなしと何れが主になつて居るかが明瞭でありたいと思ひます。繪の心持をうたふために歌がかゝれるならば、も少し繪を立派に上手にして、子供が繪そのものを見て直接充分にその心持をおこし得る樣にありたいと思ふ、どうも說明が濫用される嫌ひがある、ごく無遠慮に云ふ事が許されるならば繪があまり上手でないために文字で之を說明してその心持の代理をし之を補ふとする樣に見える、しかも其文字は實際は補ひとならず其繪を損つてしまふ事が多いのです。繪そのものを一の藝術として考へればそこに說明的の文字をかき入れる事は可笑しい事です。(尤も日本風の趣味で掛物などには讃をかく事をしますがこれは一種の機智(ウイット)を樂しむものでせう。)

そこで繪を繪として徹底させたいと云ふ事から繪雜誌における

○繪そのものゝ問題

を少し考へて見ませう。どうも說明をしなければその繪が繪として徹底しないと云ふ感があるために繪其のものが說明的になつてしまふのが多い

のです。ある學者が「子供のかく繪は字の代りにかくのである」と申して居りますが、繪雜誌に於てはあまりにこの傾向が勝ち過ぎて一つの纒つた繪としての印象を與へる事がきはめて少なくなる繪雜誌の繪は大體二頁全體にかゝれた大きな繪と小刻(こきざ)みにした繪との二つに分けて考へられますがこの後者は一つ〳〵の繪を次から次へとたどつて行くので、これは編輯の側から云へば子供が同じ一頁に永く眼をとめる樣にと云ふ所にあるので、必ずしもこれは惡いとは思ひませんが、しかしかゝるおはなしの性質を充分にもつて次々たどつて行くものはそれとして、はなしにおもきを置き、繪は繪として思ひ切つて大きなのび〳〵としたものを見得る樣に、コセ〳〵と小刻みをたどるものでない方がよい、あまり小刻みの繪をたどる樣にばかりすると、子供は次々へうつつて行く卽ちその話の筋をそれからどうなるかと云ふ方に氣をとられてしまつて、移氣になり、一つの繪を落ちついて見て繪を中に讀み込む事、內へ深く見ると云ふ奧ゆかしい性情の發達を妨げてしまふ事になります。

○各雜誌の特色とする所

さて結論として、どうも此頃の繪雜誌が各々の特色とする所をはつきり持つてゐない樣に思ふ。どれもこれも同じ樣で、一雜誌が或る體裁をつくるとその體裁がすぐ全體に行き渉ると云ふ有樣です。何處に其雜誌の着眼點があるか其の編輯者の主旨がどう云ふ所であるか明瞭でありません、西洋では、雜誌の名をきいて其の編輯が誰であると云ふ所から、すぐその內容がわかる位ですが、どうも我が繪雜誌にこれがない、そこで選擇上誠に困るのであります。在來のものとして確に獨特の方針のたつて居ると見えるものは極く少いのであります。

各誌が普遍的色彩をおびる原因の主なるものは

その内容が季節及年中行事を主として之を子供の生活に又はお嘶に結びつける事にあると思ふ。各雑誌が何故今月はかゝる材料を撰ぶかと云ふ事は季節及年中行事から來て居るので、こゝに困る事は今の樣に一ヶ月づゝ先に發行されては（卽ち六月の初め七月號が出る）家庭で之を子供が見ると實際の季節と衝突を來すので母親などは少からず迷惑するわけです。

年中行事は子供の日常生活に勿論關係ある事でそれに準ずるのは決して惡い事ではありませんがしかし、その採り方があまり在來の暦に捉へられるために、どうも何となく新鮮な氣分が乏しいのであります。何か編輯者の方に「この繪」「この話」を書きたいと云ふ方針が確にあつてそれに年中行事を結びつけて行くのであれば無理もコヂツケも起らず、よいのであるが、そうでなくて年中行事の方が主體となるためにどうも何だか舊くさくなるのであります。尤も年中行事や社會行事にしても桃の節句や端午の節句などならば、昔も今も左程かはりはありませんからよいでせう、けれども例へば七月號に殆んどどの繪雜誌にも題材になつてゐる「七夕」や于蘭盆の行事などは近世の子供にはやゝ緣遠い事で、しかも何れの場所何れの家庭でもする行事でもありますまい。ことに于蘭盆などの行事は書き方によつては實に子供らしくない淋しい氣分を起させる事がないとも限りません。どうも新鮮味が少ない嫌があります。極端な例を云へば某誌には丑の日として子供が鰻をたべて居る處を描いたり、又某誌には附錄でしたが十二支がかいてありました、これなどは我々大人の間でもだん〳〵廢たれて行く事で、これでは老人雜誌の樣になります。

同じく季節、年中行事を取扱ふにしても之を理科的にとらへて行かうと云ふ新しい試みも見られます。たとへば五月雨と云ふ事を、何故かういふ自然現象が起るかと云ふ話にするので、この傾向

は當世風ではありますが、しかしこれもあまり多くなると主智的に傾きすぎて娯樂本位でなくなり子供繪雜誌の主目的たる感情陶冶の方面からかけはなれる事になりませう。

○編輯者と子供

次に編輯者の子供に對する態度には種々ありませう、子供を小さなもの、つまらないもの、と見てたゞ之を茶化して居る樣な態度も往々あります或は大人の見地から子供を見てゐるのもある。其の極端なものになると子供の生活を狂句や川柳の取扱ひ方にして、それをかいて居る。これをよむ子供は自分自身の生活を自分に見せつけられて居る事になりませう、又或るものは全然教訓的な立場に立つて、子供の過失をならべたてゝ、叱言を云ふ調子で編輯してゐるのもあります。何れも適當な態度とは思はれません。やはり子供の生活そのものをよく理解し、理解したばかりでなく、編輯者自ら子供の生活を生活し得る人であり、又子供自身の生活の態度で編輯する樣にありたいのです。終りに

○現在の繪雜誌を如何にすべきか

といふことを少し申上げたいと思ひますが、先づ

（一）社會的の一つの事業である以上はこの檢閲が何所かで行はれゝばよいと思ひます。しかしこれも檢閲者にその人を得なければならず萬一檢閲者にしていやに教訓的にのみ見る樣なことがあるとすればやはり害ある事になりませう。それから

（二）これら多數にある繪雜誌を存分に競爭させて見たらよいとも思ひます。聞く所によればこの繪雜誌出版業者は相提携して居つて、紙數の增減、定價の問題何れも其の組合で協議すると云ふ事である。これは營業上の制裁と云ふ方面からは

よいであらうけれ共、雜誌そのものゝ發達と云ふ上から見れば望ましい事ではありません。このために有力でない雜誌が可成り有利な位地を占めて資本のどし〳〵まはる雜誌社が微力者のために阻害される事がないとも限らぬ、雜誌そのものゝ積極的の發達が妨げられない樣に、どん〳〵よくなる樣にしたいと思ひます。

（三）時々各誌の內容の批判が行はれたならば適當であると思ひます。これによつて一層進歩する事になります。

（四）幼稚園關係者と云ふ立場から考へると、次第に趣向を凝す事の甚しくなる結果幼少のものに適して居つた時代から現今は次第に年長のものにも適する樣になつて來た、其範圍が廣まつたために素人見（しろうとみ）ではどうしても年長のものにも適する樣にしたのは內容が充實した樣にとられるので、受けがよいそのためにこの傾向が盛になつて、幼兒向きが減じて行きます。そこで純幼年向の雜誌が出來ればよいと思ひます。

○家庭に對する注意

此頃の樣に澤山繪雜誌が出る上は、この選擇はどうしても親がしなければなりません。必ず子供には買はせず、親自ら買つて之を子供に與へる樣にしたいと思ふ。繪雜誌を賣る店について聞いて見ますと、子供自身がお金を持つて買ひに來る事が多いそうですが、これは誠に危險です、子供の選擇標準は誠にあてにならず、一寸の出來心で、ふと買つてしまふのであります、他の事ではなか〳〵子供に金をもたせぬ嚴格な家庭が、本を買ふと云へば子供に小費（こづかひ）をもたせて買ひにやらせ其選擇にまかせる事を仕勝ちですがこれは絕對に禁じなければなりません。扨、母親が選擇して與へる場合には、出來る丈け澤山の繪雜誌に目を通して二冊でも三冊でも（あまり多いのはいけますまいが）、大體一定した雜誌を與へる樣にするがよろし

い、そして甲なら甲の雜誌を少くとも一年間は繼續してよませるのがよいのであります、毎月とりかへて種々のものを與へると云ふ事は、多讀亂讀の弊以上、更に怖るべき結果、卽ち子供の思想の內的混亂を來す事になります。(種々の趣味、感想にふれるために)それゆえ、よく其の年令性質に應じて適當と思ふものを選び、之を一貫してよませる樣にすればその一貫することのために生ずる利益は多いのであります。

○幼稚園と繪雜誌

幼稚園としては、每月出る繪雜誌を凡べて網羅したいのであります。そしてこれを如何に用ふるかと云へば、第一にこれが保姆自身の誠によい參考書となると云ふ事にあります。多少幼兒敎育に經驗あり識見ある人々にとつては、素人が見て何でもない事でも、非常におもしろく、又編輯者の苦心の點なども洞察し得るのであります。

のみならず、月々發刊されるこれら繪雜誌からつねに保育の內容そのものに刺戟を與へられ、材料にも方法にも新しい氣分をそゝがれて、保育內容の固定する危險及其の貧弱になりやすい空虛になりやすい所を償はれるのであります。先生が見るからには、どんな繪雜誌でも、善い惡いの差別なく見る必要がある、しかしそれを子供に與へるとなれば、これもやはり家庭におけると同じくよく選擇して一定して與へるのがよいので、卽ち多く買つたものゝ中から選出して與へる樣にするのがよろしい。

又、幼稚園ならば、其子供に與へるものゝ外に一冊として與へられない雜誌でも、之を切りとつて案外よい保育資料がえられる事がある。裏の頁が子供に見せて不適當ならば之を裏打ちするなどもよく、時に思ひがけないよい繪が、外の部分は子供に不適當だと思ふ繪雜誌の中にまざつて居る事がある。(よく繪雜誌の中の繪を切つて額に入れ

て室内の裝飾にして居る所もある樣ですが、如何に子供の室でも私はこの裝飾にはあまり感心しない、裝飾の額にはやはり思ひ切つた眞の藝術品を用ふる方がよい）

また繪雜誌を保姆がいろ〳〵に工夫をして例へば其の中の話を作りかへたり或は繪をつくりなほしたりして自由に之を利用する事も出來る事でせう。

要するにこの繪雜誌は各方面に今一層の努力をして今以上に進歩させなければなりません。

（筆記……文責記者）

生けるものは盡く
周圍に一種の空氣をつくる
（ゲーテ）

橋の上から。

ふと、橋を渡りかゝる。荷船が今、岸についた。子供が、一人、二人、三人、四人、船に居る。十六七の男の子、十一二の男の兒、十位の女の兒、赤坊はその背にねむつてゐる。四つ位の男の兒、それに、色黑の父と母と。

船には砂を山の樣に積んでゐる、板一枚が岸に渡された。砂は蔭ではこばれる。父さんが棧橋わたつてエッサ〳〵と行くその隙に、末の子は大きな砂掻きそつといぢる、重い柄がわづかに動くと、その兒はニッコリ、うれしそう。父さんと總領息子は運び役、母さんと二番目の子は掻きゞせる役、女の子は子守役、末の子は棒切ふりあげて身體ばかりは忙しさうにお世話燒き。父と母と子と、家族が同じ仕事に一生懸命。彼の住居は竿竹一つで愚ひのまゝに水上を移り行く一艘の船。面白かろう船の生活。涼しかろう船の生活。樂しかろう、父と母と子と一緒に。

梅雨の晴れ間の陽がギラ〳〵と水面を照してゐる。

（六月某日……T·K）

夏の病氣と幼兒の食物

醫學士　青木醇一

梅雨期から七八月の炎暑の候にかけては小兒の病氣の一番多い季節であります。此の季節には、兎角人々の身體の組織は弛緩し易く、從つて其の機能も鈍つて來ます。殊に小兒の消化機能は著しく衰へて來るので、夏になると僅かの食物の不攝生があつても、小兒は忽ち胃腸を害ふ事になります。それに夏季は一體に黴菌が繁殖し易いので色々の食物が直き腐敗いたします。朝煮たものはもう晝には惡い臭を放つと云ふ樣な譯ですから、餘程家庭で注意せぬと、遂、小兒に惡いものを食べさせる事になります。斯樣な譯で、小兒の夏の病氣と云へば消化器系統の疾病が主であります。それ故小兒の夏の衞生も此の方面の注意が殊に大切であります。で、今日は特に幼稚園期の小兒に就て、夏の病氣と小兒の食物に就てお話いたして皆さんの御注意を促し度いと思ふのであります。

○幼兒に多き消化不良症

何と云つても夏季の幼兒の病氣としては、一番多いのは消化不良症であります。恐らく夏の病の大半以上を占めて居りませう。此の病氣は主に食物の不注意が原因となりますから、家庭で注意がよく行き屆きさへすれば、幼兒をこんな病にかけないで濟む筈ですが、それが仲々困難な事と見えまして年々歲々夏になると幼兒が食べ過ぎて胃腸を害したと云ふ樣な事で醫師の門を叩くものが增して來る樣な狀態であります。

幼兒が此の病に罹つた場合、よく母親に就て其

の原因を質して見ると、大抵思ひ當る處がありまし。お祭があつて、食べ過ぎしたとか、日曜に何處へ行つて何を食べたのが惡るかつたらうとか或は又、食べた果物が未熟であつたとか、古かつたとか申します。それで、病氣の起りはどんな風であるかと云ふに、多くは食物の不注意のあつた翌日とか、又は其夜かに急に食べた物を吐きます、それから又腹痛を訴ふる事もあります。兎角してる内に、下痢を起して來るし多少の熱も出て來ます。同時に氣力がなるなり食慾が減つて來ます。斯うなると母親は急に心配になつて來るので、忙てゝ醫師を迎ふる事になります。之が夏になつて小兒に頻々とある消化不良症でありますが、此の位の容態なら夫れ程の事もなく其後の食物にさへ充分の注意を加へておれば數日の内には治癒いたします。併し之を捨てて少しも構はずに置くとか、又は幼兒の體質によつては初めから之よりも一層劇しく起つて來ます。その時には幼兒は食慾は全くなくなり渴を非常に訴へます。そして嘔氣や嘔吐が一日に幾度となく起つて來ます。それから顏貌はぼんやりとして來て、少しも平素の樣な生き〳〵した處が無くなりますし、全身は非常に勞れて手足など置き處もないと云ふ樣子をします。其内にウト〳〵眠つて來ます、時折眼が覺めたかと思ふと又ウト〳〵致します此時脈に觸れて見ると非常に速く且つ眠つておるのが普通です斯樣な狀態を消化不良性昏睡と名づけ小兒科醫は特に恐れております。之は消化不良症の内、最も重いものでこんな容態を示して、來たならば、餘程警戒をせねばなりません。一體に此病では嘔き氣の多い事、ウト〳〵眠り込む事、顏貌に生氣なくどんよりして了ふ事が特徵でもあり、又最も恐るべき徵候なのでありますから、之等の容態が見えたら一刻も早く醫師の治療を乞ふ必要があります。それから特に家庭の注意を促して置き度い事は、斯樣な場合醫師の來る迄は幼兒に一切食物も與へない

でおく事であります。もし患兒に食慾が無ければ一晝夜でも二晝夜でも牛乳や重湯の一匙も與へぬと云ふ程の考へで居るがよろしい。唯渴を訴へたならば、少量づゝ其都度湯ざましなど與へて之を醫してやる位にいたします。其の間に患兒の疲れ果てた胃腸は充分に休養する事が出來るので、一日か二日絕食した後には大いに其の機能を恢復して來るのであります。こゝが大切な點で、此時に素人考では食物を與へぬから疲勞が增すのだと思ひ込んで、無理にも食べさせ樣とし、又餘り食べさせないでは可愛想だと云ふて、醫師の注意に背き隱れて食物を與へたりする事がありますが、之が間もなく仇となつて稍々恢復しかけた病氣が更に急轉直下して、前よりも一層險惡な症狀を示して來る事になるのであります。四、五歲の幼兒が一日や二日絕食したとて決して餓死する心配はありませんから、醫師から食事を半日なり一日なり禁ぜられたならば必ず其の指定に從はねばなりません。

○恐るべき疫痢と赤痢

消化不良に次で夏に注意すべき病は疫痢と赤痢とであります。疫痢は、主に幼稚園時代の小兒に多い病氣で、其症狀の劇烈な事と、經過が極めて迅く、そして殆んど救助の道がないと云ふので、非常に恐るべき疾病とされて居ります。病氣の初めは丁度前に述べた消化不良性昏睡に似て居りますがそれよりも一層急劇に初まり之迄別に變つた處もなかつた幼兒が、急に元氣はなくなり、食べたものを吐いたり、下痢したりします。母親が驚いて身體に手を觸れて見ると、もう火の樣に熱くなつて居るので、體溫を測つて見ると、四十度以上にもなつてる事がよくあります。下痢は初めは食物の不消化物ですが、後には粘液や膿樣のものを混じて來ます。大抵一晝夜に四、五回から十回位のものです初めは元氣が失せ食慾などなくなりウ

ッラ〳〵しておりますが發病後半日か一日の内に症狀は急に險惡になつて來て、精神は朦朧として來るし、續いて全身の痙攣を起す樣になりますこうなると顏は全く蒼ざめ、口の周りは紫色を呈し眼は急に落ち込んで見るからに哀れな狀態になつて來ます。それに病兒の苦悶の狀など到底見るに堪へぬ程烈しくなつて來て、刻一刻と危險が迫つて來る事が素人眼にもよく判る樣になりますそれで極く迅いのは發病後十二時間位で既に死亡致します。遲きも二三日後には死亡すると云ふ樣な譯で其の經過の急劇な事誠に疾風迅雷耳を蔽ふ間もないとも形容したい程であります。それに一旦罹つたら最後、先づ十人が十人まで助からぬものと思はねばなりません。

斯樣に恐ろしい病が、如何して起るか目下の處其の原因も確乎とは判つて居りません。傳染病の內に數へてはおるものゝ、確かに傳染病だと云ふ程の證據がある譯でもありません。唯多くの經驗によると食物の不攝生のあつた後に起るのが多い樣であります。それから又寢冷えをして腹部を冷やしたと云ふ樣な事も此の病に多少の關係がある樣に思はれます。殊に不思議な事は、此の病氣は殆んど幼兒に限られて居る事であります。乳兒や其外、年の進んだ小兒には餘り見受けられません

此の病は、大抵急に初まりますから、醫者を待つ間家庭で何とか應急の處置をせねばならぬ場合が多いのであります。應急の手當としては、患兒を靜かに寢かして、腹部には懷爐なり蒟蒻なりで溫罨法をし、足が冷たければ湯婆でも入れて、溫むるがよろしい。又熱が高ければ頭は氷囊や氷枕を用ゐて冷やさねばなりません。それから食物は消化不良症の時と同樣一時與へずにおく事が肝要です。渴が强ければ折々冷水でも與へておく樣にいたします。其の他の事は醫師が來てから其の指定に從つてするが最も安全であります。

疫痢の外、夏季に流行する病としては赤痢が多

いのでありますが、之は幼兒に特に多いと云ふ譯では無く、大人でも小兒でも一樣に罹る傳染病であります。症狀は、こゝに申すまでもありますまいが、便の回數の非常に多い事例へば一晝夜に二十回三十回時には更に多くなります。それから便に粘液血液膿等を多く混ずる事、それから又裏急後重と申しまして、頻りに便意を催して來るが、さて便器にかゝつて見ると餘り便通がない、其の內又間もなく便通を催して來ると云ふ樣な調子で兎角患者に苦痛もあり不快の感の多いものですが之等が赤痢の特徵であります。其外腹痛や發熱のある事、患者の衰弱の加はる事等は云ふ迄もありません。

幼兒が赤痢に罹るのは、主として飲料水野菜果物類の不注意から起ります。それ故夏季には、殊に其流行のある際は、一層嚴重に之等の食物に注意を加へねばなりません。

○幼兒と夏の食物の衞生

以上述べた處は何れも幼兒に多い夏の病でありますが其の原因は皆食物に關係致して居ります。それ故重複の嫌はありますが尙一言食物の注意を附け加へて置き度いのであります。一體に幼稚園時代の小兒の食事は朝晝夜の三度の主食事の外に午後に一度「おやつ」が必要です。之は決して、幼兒の退屈凌ぎや慰みの爲めではなくて、生理上の要求からであります。幼兒は大人と異つて、今盛んに身體が成長しつゝある時代ですから、既に發育の進んだ大人と比べたなら、成長するに必要な丈の餘計の食物が要る譯であります。そこで食事の回數も四回か五回なければならぬのであります。で幼稚園前の幼兒には、午後の外には午前にも一度簡單な「おやつ」を與ふるのが普通です、幼稚園期以後の幼兒には「おやつ」は午後に一度で充分です幼兒に菓子や果物を與ふるのは、此の「おやつ」

の折が最もよろしい、そして之等の定つた食事以外には幼兒のせがむのに任せて幾度となる菓子や果物を與ふる事は避けねばなりません。

夏季になると前にも述べた樣に、幼兒の消化機能も著しく鈍つて來ますから、少し食事が不規則になつたり、多過ぎたりすると兎角障碍を起し易いものであります。それに夏季には幼稚園に通つてる小兒は、夏の休みで一日中家庭におる事になります。其の上どこの家庭でも夏は暑さが強いので戸外にも日中は餘り出さぬ事になりますから、小兒は自然家庭に居て退屈を感ずる事にもなり、從つて色々と食べ物を母親にせがむ事になります之迄、幼稚園にいつて居て、午前には間食など少しもせずよく運動して居た小兒が、急に運動も少くなるし、無暗に間食が增た事になつて來ます。こゝが家庭が大に注意すべき點で、幼稚園に行つてた間は至極丈夫であつたが夏の休みになつてから度々消化不良症を起して困ると云ふ母親の訴を聞く事になる譯であります。それ故、夏季に向つたなら、食事も以前より一層規則的にして間食もほゞ一定した時間以外にはやらぬ方針にせねばなりません。

尙又夏季は暑さの爲め渴を覺ゆる事が强くなるので、水や氷を飲み過ぎる事なども隨分ある事ですから、此邊も餘程注意が要ります。それから又梅雨期から夏にかけては小兒の好む果物の多い事が又小兒の病氣の原因になります。枇杷、櫻桃、桃西瓜、梨など何れも幼兒には不消化な者で且つ早く腐敗し易い者でありますから、果物を與へる場合はよく吟味してやらねばなりません。又家庭では氣を付ける積りでも、小兒が外に出て兩親の知らぬ間に不攝生なものを食べる事などもよくある事ですから、之等は平素からの躾け方をよくしそんな心配のない樣にしておかねばなりません。

食物に注意をすると同時に、夏の暑い間でも戸外に出して充分運動させる事が大切です。夏は暑

いからと云ふので二月も三月もの長い間幼兒を家の内にのみ閉ぢ込めておくと、自然運動も不足になるし、從つて食慾は減じ身體の機能は益々鈍り遂には健康を害する事になります。夫れ故、朝夕の涼しい間は勿論日中でも木蔭などの涼しい處を擇んで、自由に戸外で遊ばせる樣に奬勵せねばなりません。

それから、又近來は避暑が大分流行しますが、避暑地などでは、殊に食物の注意は大切です。避暑に行つてから幼兒が消化不良になつたとか避暑先きで赤痢や疫痢に罹つたと云ふ話は私共が屢ば耳にする處であります。之は避暑に行つてから却つて幼兒の生活が不規則になり食物などに對する注意も之迄家庭に居た時の樣に周到でなかつたりするのが、原因になります。又衞生上の設備の不充分な避暑地では夏季には殊に赤痢其他の傳染病も流行しますから、飲料水や牛乳野菜類果類等に對し、余程注意せぬと遂之等の傳染病に罹る事があるのであります。それ故、飲料水などは必ず煮沸してから與へる樣にし、其外の食事も之迄家庭に居た時と餘り變らぬ樣にする事が大切です。

○文部省講習會

文部省に於ては來る八月一日より同九日に至る九日間、東京女子高等師範學校に於て、幼稚園長及保姆のため左記の通り講習會を開催する由。(六月二十五日の官報參照)

一、北海道廳及各府縣講習員の定員は二人とす。
一、講習員は地方廳官之を選定す。
一、地方長官は講習員を選定したる時は、本人の氏名、職業、講習を受くべき學科目及會場を記載したる選定書を七月十日迄に文部省普通學務局に差出し講習員を開會前日迄に講習會場に出頭せしむべし。
一、前記の資格を有せざるものは講習員として選定する事を得す。
一、地方長官は定員以外に於て豫備員を選定する事を得。
一、文部省に於て前項豫備員を許可したるときは其旨地方長官に通知す。
一、講習を終りたるときは講習員の出席を査案して證明書を授與す。
一、講習に要する實習費は當該學科目講習員の負擔とす。

桃太郎かるたについて

廣島縣三原女子師範學校保姆　米山エン

私がこの桃太郎かるたを作りましたことについて少しもうし上げたいと存じます。私は前から幼稚園に於ける幼兒の生活と保姆の生活との上にあきたらなさを感じて居ます。それは動々もすると無抵抗な無氣力なものとなるのを見もし又私自身も味ひました。それは最も幼稚園生活に馴れ過ぎた幼兒と初めて幼稚園教育にはいつて來た保姆との間に起る一つの現象を感じました。どうかしてもつと意義ある抵抗あるものとしたかと思つて居ます矢先私は或子供によつて或ものを發見しました、否その機會に遭遇したのであります。それは高年部の幼兒三名が砂の上に木片の先きで怪しげな型のものを描いて頻りに云ひ爭ひをして居ます。そこへ私が顏を出しますと、よい裁判官が來たといふ樣な顏をして私に次の樣な質問を始めました

先生「キ」と云ふ字は木原のキですね。

先生「コ」と云ふ字はこつちですね、それはニとコとの二字に對しての質問でした。その外種々の片假名に對して質問しました。その眞劍さには驚かされました、それより以後はかゝる機會に遇ふ事が非常に多く第二保育期の中頃より第三保育期にかけて著しくなつてまいりました、その原因は他にあることゝ存じますが文字慾の盛んに躍動致しますのはやはりこの頃かと云ふ事も知られます、他にある原因と申しますのは、最早義務教育に入らんとする時で御座いますから環境上やら又は自覺等から起つて來るものと存じます、そしてこの機會は大變によいと存じます、この將に芽生せんとする精力を壓しつけるは發達を害ふ大原因と存じます、そしてその結果無抵抗な無氣力な生

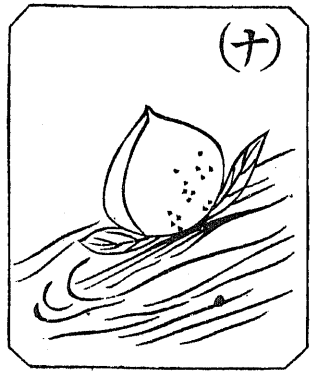
活にしてしまふものと確信しますかく申しましても私は決して文字を教授するものでは御座いません。又教授すべき性質のものでは御座いません。が然しそれかと云つてその精力を其の慾求を強壓することは勿論出來ませぬ。その萌芽に對して害なき教育をさせる責任を私共はもつて居ます、そこに私共の生活、ほんとに意義ある生活が生れて來ます、そこで私は次の様なものを考へました。

幼兒が知らんと欲するものが幼兒を毒せざる限りは知らしめやう。つまり遊戯の間にしらずしらず自己の知らんと欲する文字に出會することは愉快なことであらうと思ひまして五十音字よりなるかるたを考案いたしました。

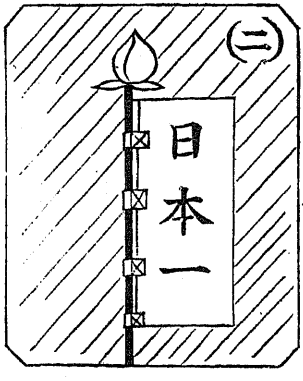
桃太郎の童話を中心としまして五十音の各音字により文字的(幼兒文學的)に仕組みまして、取り札と讀札との二とし、讀札は片假名で讀み安い様に書き、取り札は木質としてその句の意味により幼兒的の彩色繪を描きその頭に五十音字の一字をかき表はしました。

例、ナ行、

句、ながれにうかぶ大きな桃の實



句、日本一のはたたて、



かくして製作しましたかるたを幼兒に與へました處非常な歡迎で朝からかるた、かるたと騷ぎ廻りまして正に二時間は集注的遊びを致しますそして最もこの遊びの高潮に達しますのは十二月から三月頃で御座いました、三月に入りましては讀札の方を讀む幼兒が三名出來まして保姆に差支が御座いますときはおぼつかながら幼兒同志で源平の仕合をやつて居ます。

その眞劍の遊びには我々共もしらずしらず引きこまれてお晝の仕度をすることを忘れて居る事が度々で御座いました。

遊び方は色々御座いますが一等面白いのは源平仕合の樣で御座います、取りあつてあとはどつと笑ひに紛ぎれて勝敗けのいがみ合とか競爭のみにくさは一寸も御座いません、どんよりとした重さうな悲しさうな雨の日などに時ならぬ陽氣な笑ひ聲を聞きますことは私を心から滿足させます。

この遊具を與へましてからの幼兒の變化を申しますと。

幼年雜誌に對する見方が一變してまいりました、その共鳴點が繪のみでなく繪と片假名からなつて居る處の樣に存ぜられます。

幼兒の姓名を讀むこと、これは片假名で書いてありますと草履でもお辨當袋でも、箸箱でも、想像をまぜながらよんで居ます、お辨當の當番などにはちやんと御膳立が出來ます。

凡て物に對しての注意力が加へられた樣に存じます時に文字に對しては注意が深くなつた樣な感を持ちます。

又次には個性觀察の材料ともなるべきものもこれによつて得られます。

加樣にして遊びました結果を調査致しましたから次表の樣なものを得ました。

一、片假名文字による調査

一、調査人員男兒十八名、女兒十四名

一、調査表

性別	讀力の全能なる者	記述力の全能なるもの	十音字以上の讀力あるもの	十音字以上の記述力ある者
男兒	二人	一人	十人	十二人
女兒	七人	一人	四人	十人
合計	九人	二人	十四人	二十二人

但し、文字に對しての欲求皆無のもの男兒に一名、女兒に二名あり。

過般、伽噺の大家久留島武彥先生が我が三原町に御越しになりました節親しく御目にかかりましてこのかるたにつき御批評を仰ぎました處、先生も御賛成下さいまして、中に十句程改作する樣御指導下さいました。そして先生がその改作に御筆を御取り下さる樣御承知下さいました、田舍に居ります私には實にうれしくて早魃の夕立それの樣感ぜられました。

表情遊戯について

土川五郎

エテル、ウルリン氏の「大古と近代の舞踊」の序論に次の如きことが記されて居る。

『吾人が文明の歴史を原始時代に遡りて攻究すると其結果舞踊は人間の最初の本能の外部的に體現せられたもので又同時に最初の藝術である事が證明せらるゝ、恰も赤兒が自已の感情を啼泣と身振とに依りて知らしむる如く歴史以前の人類は彼等を動かした種々の熱情を外的に發表しやうと力めて此等の表情の原始的樣式を創めたのである、此の故に舞踊は其第一解剖に於て劇的の形式に依つて思想を發表せしむる身體上の動作から成り立つ、併し其最初の階段として猶他に一層重要な要素がある卽ち節律的と云ふ事である。

あらゆる自然は節律を表現して居る卽ち波浪、潮の干滿も、光線音響の振動も又天體の調和的運

動皆然らざるなしである、而して人間が彼の身體の節律的運動に依つて其感情を表現しやうと試みるこの情緒の發表としての舞踊は音樂の發明を俟たなければ實現することが恐らく六ヶ敷いのである事實上最初の音樂は舞踊に伴はしむる爲めに作られ或は卽興的に工夫されたものである事は吾人の最古の音樂の用語起原について明らかに其事實を說明して居る、卽ち其起原は單なる音樂ではなく舞踊から發して漸次に獨特の音樂的意義を有する樣になつたのであらう。

舞踊の起原につきて常に少くとも三つの主義の融合せるものである事が認めらるゝ。

一、古代の天文學に說いてある如き星宿の運動の模倣である儀式的又は宗敎的舞踏。

二、人間の主なる熱情若は劇的若しくは歷史的表現。

三、動物的祖先の信仰の表現である動物の運動物眞似又は摸倣。

古代及び近代に於ける舞踏間の種々雜多の變化は此の三つの原則の一つ又は他の二つが融和せられたものである。』

かういふ事をこゝに揭げたのは、これによつて次の事に注意を向けていたゞき度いからである。

一、表情遊戲を作り又は爲すのには感じが第一の大切なること

二、歌詞に伴つて居る音樂(旋律と律動)に重きを措くべき事。

現今幼稚園で行はれて居る表情遊戲が兎もすると歌詞に捕はれて、其歌詞の通りに手でお舟を作つたり山をこしらへたりして、何でも一つも餘す所なく表はさうとして、感じといふ事に少しも顧慮されぬ傾向はあるまいか、と思はれる所がある。

先づ第一が感じである 櫻が咲いたといふ歌詞に對しては、そこに櫻が實に見事に開いて何とも云へぬ美しさでしかも野も山も一面に見渡すかぎり櫻の世界、これを見ては到底默つては居られぬ。

この向上したる感じを頭に浮べてさて、自分はこの櫻が咲いたといふ詞に對し如何に表情するか、之れが第一である。次に小兒が表情すれば如何んな形式を取るか、之れが第二である。次に其表現したる形式で踊つたならば其踊つて居るものは正しく快く其感じを受取るであらうか、(運動より來る感じ方)

曲ある事を忘てはならぬ 舞踊するに至つて節律の必要を感じ音樂がそれより出て來たとすれば表情の發表と曲との關係は一の重大なる要件である、隨分曲をいじめたり、破壞したりして居る動作がある、大に考へねばならぬ、歌詞の感じをよく嚙みくだいた曲で、而も其表情の形式が其感じをよく表はして居るならば一致すべきである、併しそう都合よい事のみはない併し尠くとも其感じを表はした形式即ち動作が出來たならば曲との關係旋律や律動との調和を考慮すべきである。

表情の形式に二つの重要なる事がある

一、小兒の表情を基礎とすること　小兒の表現と大人のそれとは違ふ點がある、小兒化したる表情の形式を取らねばならぬ、又其方が眞實さが見えるし小兒にあてはめて見ると價値がある、大人の表情の形式を小兒に與ふる時は丁度借り着の洋服を着た樣で小兒も迷惑だし又其感じが面白く起つて來ない。

二、小兒の表現した形式を舞踊化すること

一つの表現と次の表現との連接を滑らかに

一つ一つの表現が大きく且强弱があつてしなやかに、然も力あつて柔らかに、

三、歌のみを唱ふて十分の其感じが出る場合と表現を加へて一層其感しの强くなる場合と、表現に助けられて感じを起す場合と、此の三つによつて表現と其連接とに注意を拂はねばならぬ。

四、表現の形式が自然的である樣に、不自然にならぬ樣に。

五、表現の形式が舞踊するものに其感しを身體

的に感ずる樣に、こゝに「面白い」といふ詞を表はすに手拍子がよいか足拍子がよいか、足拍子にのみ偏しては良くないが足拍子の方が小兒の表現としては適切で又足拍子は中々よい感じを起すものである。

以上は表情遊戯を作る時又は小兒と一所に遊ぶ時に注意す可點とを思ひ付の儘記したのである。

文部省保育講習會講習要目

東京女子高等師範學校教授　倉橋惣三

一、保育の手段としてのお話（十六時）

一、保育の手段としてのお話の本質及價値、　二、お話の心理的内容　三、お話の選擇　四、お話のつくり方に就て　五、幼稚園におけるお話の仕方について

東京女子高等師範學校助教授　平島權藏

一、幼兒に近き生物（十時）

一、生態及形態上の研究　二、飼育及培養　三、保育上生物に關する注意事項　四、幼稚園に於ける生物研究

東京女子高等師範學校講師　菅原教造

一、色及色の配合（八時）

一、色と形　二、色の組立　三、色の變化　四、色の配合　五、色の力　六、色の應用

フレーベルの日に（二）

○戰を後にして

御津幼稚園　朝平とみえ

百花が咲き亂れまして小鳥は樂しさうに歌つて居りますこのうらゝかな春の日に、私共が常にお慕ひ申て居りますフレーベル先生の御祭典を擧げられました事はまことによろこばしい事で御座います殊に私のやうなものがしばらくの間この御祭壇を汚させて頂きますことはまことに身にあまります光榮と存じます次第で御座います。さて子供と云ふものは總てが目であると云ふ言葉が御座いますが之は只今此處にお祭り申してありますフレーベル先生の御言葉でございます、このお言葉につきまして深く考へ研究致しますと云ふことは教育者に取りまして誠に大切な事で御座います、保姆の一擧一動は直に子供の心にうつりまして何か

で現はれて來るもので御ざいます、この周圍から知らず〳〵の間に敎へられてゆきます敎育の力は誠に大きなものでありませう、一體敎育と申ますものは環境から種々の支配を受けまして更にその環境を支配するやうな人を作ることで御座いませう換言しますれば周圍から受けます敎育は丁度社會に順應する爲の敎育でありまして、後には社會を支配する人卽創造の力を持つた人を作り上げますのが敎育の一の意味では御座いませんでせうか、幼稚園時代の子供は誠に自我が强く我儘な生活を致して居ります、卽ち自我萬能の世界で御座いませう、で一寸考へますれば周圍からの感化又は環境からの支配などをどうして受け入れるであらうかと思はれますけれども、よく〳〵考へますとこの幼稚園時代の子供ほど外界からの印象を受け入れます時は御座いません、例へは此處に一人のまことに亂暴な子供が御座いまして他人の言ふ事などはちつともきゝ入れぬと云ふ、もてあまされた子供でありましても、周圍が正しく靜まりました謹嚴な式場などにありましては見違ふばかりにおとなしくして居る事が御ざいます。又常にはめそ〳〵と泣きまして何か身體に異狀でも來して居るのではなからうか、と思はれますやうな子供でありましても、さあこれから御辨當を持つて御花見に行きませうと周圍が勇み立ちました時には、いつになく喜色が包みきれず如何にも愉快であると云ふやうな顏を觀る事が御座います、それでどのやうに我のつよい子供でありましても環境から及ぼされます支配の大きいことを知るので御座います、この樣に周圍によつて敎へられますことが度々御座います、けれども前にも申ました通り之ばかりで御座いましたならば敎育は丁度車の輪の一方の樣なもので御座います。たとへ幼稚園時代は創造が主觀的でありましても、將來客觀的になる萌芽が現はれるもので御座います。卽ち將來に於きまして其の敎へられた環境を支配しや

うとする樣の時々ほの見えるもので御座います、私共は此處に注意を致しまして決して其の出はじめました芽をば摘み取つてはなりません。之を善導せねばなりませぬ、例へば四五人の子供が樂しさうに兵隊ごとをして遊んで居ります中の、一兒は大變に威張り自分は大將であると云ふ樣な顏を致しまして皆のものはこう云ふ樣に並んで此の樣になさい、と得意然と部下に命令を下して居ることが御座います又積木などの時にも自分が珍らしい面白いと思ひました時には先生こんなのが出來ました、こんなのを作りませうと申し出る事が御座いますが時々はそれをも取り上げその子供に賛同してやると云ふのも又必要なことであります、かく致しまして創造と云ふことがだん〳〵と眞の意味にかなう樣になつて來るのでありませうと存じます、かく私共はどこまでも周圍からの支配を受け、終には、又其の環境を支配すると云ふ人を作らなければなりません、あの今日盛に唱へられて居ります創造的の教育と申ますのも亦こんな事を云ふのでは御座いませんでせうか、戰を後に致しまして我が大和民族の益々發展致しまして櫻花の爛漫と咲きにほう樣に致したう存じます戰後の教育者の一人と致しまして私共も亦新らしい使命に感じたいと存じます、フレーベル先生はその思物論の中にも常に創造と云ふことをお考へ遊した樣に伺はれますが私は今日のこの思ひ出の多い御祭典にあたりまして層一層とその事を感じ入りました次第で御座います。

まことに永々と御靜聽の程感謝致します。

○倉橋主幹の保育講習

◎名古屋市にて　「幼稚園の本質」　七月十六日より十八日迄　名古屋市保育會主催

◎岡山市にて　「幼稚園教育の諸問題」　七月二十日より廿四日迄　岡山市及吉備保育會主催

◎高松市にて　「家庭及幼稚園における幼兒の教育」　七月廿五日より廿九日迄　香川縣保育會及高松市婦人會主催

尙八月一日より別項のごとく文部省主催保姆講習會に於て「保育の手段としてのお話」の講義ある筈。

幼稚園教育學講義

――神戸に於ける講演――

文學博士　谷本富

第四章　幼稚園の教育と新哲學

前三回の講議で既に幼稚園教育の實際問題は略ぼ說き盡して居る。否今日までのお話で理論の大體はつきて居る。乃ち此の上に各自の勉强と才とに依りて效果を擧げるのである。勿論單に勉强と才と丈では事の完全を期することはむづかしい。學說理論を十分に研究して、此の道の知識を持つて居て、然る後に勉强し才を利用せば效を奏することも又一入多いことであらうと信ずる。卽ち幼稚園保姆には必要なる五條件かある。

一、職業として明瞭の感

二、天然兒童に對して興味を持ち且つ兒童取扱に對する自然の才幹

三、兒童に對する科學的の素養

四、宗教的觀念つまり信仰

五、哲學特に最終の條件は今後に於て最も必要である。

そこで今日まで述べたことを考へて見ると次の樣なことが云へるのである。

(一)　モンテッソリーは科學的根據は持つて居るが宗教及哲學の素養が十分でなかつた、それは單に低能兒教育を土臺とした爲であらう。

(二)　ロバートオーウエンは社會學の根據を持つて居る、然し彼の哲學は卑近のもので、高尙とは云へぬ。

(三)　フレーベル氏は信仰と哲學とを有して居る

然しそれは舊哲學である故二十世紀の今日、このフ氏の哲學を全然取るなれば、そは少し時勢に後れるものと云はねばなるまい。

蓋しフレーベルは哲學者であらうが、哲學史中には彼の名を擧げてない、そは彼は哲學者としては第二流乃至は第三流であるからである。彼の著書 Education of Man 卽ち『人類の敎育』の中には基督敎主義的哲學思想が十分に現はれて居るが悉く獨創的ではない。フ氏より前には如何なる哲學者があるかといふと、彼の有名なシエーリング、フヒテ、などであつてそれに影響されて居る。

シエーリングはカント直後の三大哲學者の一人であつて、十八世紀の始頃の人である。フヒテも亦カントその中の一人である。フレーベル以上二人の思想を受けて居る。フレーベルはその親友がヒフイテの弟子であり、彼の妻女も亦その弟子であつた所から、一層影響を受けて居るのであらう。從つて吾々が今日のフレーベルの哲學を學ばんとするには、必ず前にあげたシエーリング及フイヒテの二人の哲學を研究せねばならぬ。自分が嘗て獨逸に留學中試に組立てた積極的敎育といふのも此のシエーリングの哲學に據つたのである。

斯くてフ氏の哲學の三要件はと云ふと、一、宇宙　二、美　三、象徵であつてかの六種の恩物が此の偉大な宇宙を表現したものであるとは、人のよく知る處であるが、その基はシエーリングの美哲學より來たのであるとは知つて居るかどうか。

又人間の進步に目的があるといふこと、又宇宙に意志のあること、而して萬有進步は道德といふものが最後の目的であるといふ樣に考へて居る所はフヒテよりとりたるものである。

要するに奇麗な象徵的の方面はシエーリングに依り、內容の充實はフヒテに依るとでも謂へやうか。

一千八百三十二年に世を去つたクラウゼといふ人はフレーベルの親友にして、この人も亦人類の

理想論といふ書物を書いたが、フ氏の「人類の教育」と、その思想が全然同一であるといふことは認めることが出來る。

フレーベルの哲學を八ヶ條に分ければ左の通りである。

第一、人間とは如何なるものか、人間の本體如何　勿論人間は親の子であるといふことが出來るが、廣い意味から云ふ時には三つのものの子であるといふことが出來る　一面人の子一面自然の子一面上帝の子(神の子)　故にフ氏の幼稚園教育に於ては神性の發揮に重きをおいて居る、然しこれは舊哲學思想である。

第二、宇宙は千態萬狀なれ共其裏面には一貫原理がある教育はこれを發揚すること。

第三、教育といふものは元來萬物がどうなるかと云ふことを考へて其の原理を知らねばならぬ。即ち萬物の歸趣と云ふことである。それを知らねばならぬ。此の歸趣(Desting)を啓示する事が教育の本領であるこれを人間に及ぼして考へると即ち人間の神性を發揮することである。これが大原則である。

第四、そこで何よりも大切な事は人間を思慮分別あるものとすること、言葉を變へて云へば自覺さすことである。所謂自覺とは人間は常に喜怒哀樂もある、けれ共結局神的統一の出來る自覺のある人とすることである。

第五、教育の本體の性質。

何處までも受動的(Passive)であるものである自然の儘において餘計な干渉をせぬ事。即ち神性發揮の障害物を除く丈にすること。

第六、道德に重きをおくといへ共、命令を出すことは成る丈控へること、即ち第三者(傍觀者)の位置にある心得が必要である。

第七、人間には三方面があるといふことを心得て居なければならぬ而して此の三面を普遍的に發達することが必要である、これが教育の

目的である。自分で發達すると云ふこと、卽ちAuto-educationが必要である、所謂人間の三面とは如何なるものかといふに、シエリングの見方は次の樣である。

三面 ｛ 神性 / 自然 / 人間 ｝

此の三面が表に現はれては色々の形をとつて居るのが、統一した時には神性となることが出來る。言葉を變へて言つて見ると、三面の中に一面があり、一面の中に三面があると云ふ妙處に在る。

そこで神性は統一、自然は雜異、人間は個性と看ることも出來る。此の個性といふものは統一でもなければ雜異でもない、否統一の中にも雜異、個性があり、個性の中に統一雜異があると見ることが出來る。此の說は西洋流の考へ方だが、昔から支那では三才と云つて居る。三才は天地人である。故に幼稚園に於て又家庭に在りて子供を見る時には天の子であると同時に自然の子として又人の子として見なければならぬ、佛敎では平等卽差別と云ふことをいつて居る、卽ち平等の中に差別あり、差別の中に平等がある、之を今日の哲學的に考へると統一——平等、雜異——差別であるが、悲しいことには平等がたゞに平等といふ言葉のみにて十分の研究をされて居らぬ。たゞ惡平等、惡差別を避けんとして居る有樣のみである。それと云ふのも佛敎に於て個性のことに就いての研究が乏しく、從つてそれについて進步した知識のないことは殘念である。

第八、平等であるとか個性であるとか色々に云つて見るが、歸する所は靈的本質である。つまり人は物質に非ずして靈であつて、敎育は此の本質の發揮であるといふことを、フロエ

べは强く云つて居る。これは丁度佛敎で云ふと佛性がある、この佛性を發揮せねばならぬといふのと同じことである。然るに佛敎にありては佛性といふものを兎角消極的に解釋して居る憾がある。何はともあれ以上擧げた樣な事は、何れも舊哲學的のものであつて、これをIdealismと云ふ。物を離れたもので、つまり理念論とでも云ふべく、Alsolutet Idealismと云ふ絕對論で、又一面から云ふとOljective Absolute Idealism（客觀的絕對的唯心論）にしてそれにはシエーリングの美、フイヒテの宇宙論の意が含まれて居る處にフレーベル氏の哲學の妙なる處がある。然し今日否今日以後に於て此の哲學をその儘依然用ふべきか否かは大いなる問題である。そこで今後の幼稚園は矢張りフレーベルによるかと云ふ問題は自から起つて來るのである。然し今日これに對して今後の幼稚園をフ氏によるかよらぬかは斷定しないでおくとしても、何はともあれ時勢が變つたと云ふとだけは、先づ心に考へて置かねばならぬ。ところがその時勢の變ると云ふことは、誰もよく知つて居ながら、實際はなか〳〵よく分かつて居ない。時勢は果して如何に變るかと云ふと略ぼ次の樣である。

一、Democracyになること。（幼稚園も同じこと）

二、勞働を尊重すること。

三、知識の價値に關する見方が變る。（昔と今は知識に對する考が變つた故、幼稚園の方法も變へねばならぬ。）

先づデモクラシーの意味から說かう。

世間では往々眞の意味を知らないで只危險思想の樣に思つて居るが、眞のデモクラシーは決して危險なものではない。デモクラシーは國家主權の問題でなくて寧ろ政治であるが。つまりGovernment of the people, government by the people, and government for the people でなけれ

ば眞のデモクラシーではない。而してそれは正當に解釋すると、固より吾が金瓶無缺の御國體とは敢て抵觸しない。天壤無窮の寶祚を繼承せらるゝ皇室の宛も太陽の如くに六合照臨の下に、此のデモクラシーは立派に行つて行ける。否それは元來政治の問題であるけれ共、小さくしては又一家族の中でも云へる。主人の爲めに他の家族は奴隷となつて居る樣なことは出來ない。若しそんことがあればそれはデモクラシーでない。乃ち其處に政治的のデモクラシーと社會的デモクラシーがあるといふことが出來る又國際的デモクラシーもある。今日米國大統領ウイルソン氏の曰ふ國際同盟はそれである。而してこれ等の基礎になるべきものがあるこれは卽ち産業上のデモクラシーである。つまり資産家と勞働者との關係を一變する事である。若しこの産業的革新が十分に出來ないならば、そは敎育が未だ十分進んで居らぬのである。併しその一番の根本になるものは哲學で、哲學が變れば自然思想も一變し延ひて産業も變つて來るのは云ふまでもない。

凡そ知識の見方に新舊の二つがある舊い見方は卽ち物心二元論で一方を尊び一方を賤むといふこれは舊哲學である。フ氏も亦之れに屬する。卽ち高く圓滿具足した理想があるか、實際は極めて不完全なものであると云ふ考へ方は舊哲學である。靈肉の輕重論は舊哲學である。併し今後此等の思想がその儘に許されるかどうかは疑問である。

又人間には叡智がある、そしてこの叡智あるといふことが人間の人間たる所で、結構なものであるが、一方には又感情がある。この感情は卑いもので、叡智は高尙なものであると云ふ見方をして居る說も舊い哲學である。

又人間には理性といふものがある、この理性に對して本能といふものがあるが、理性を目あきであつて本能を盲目と考へて居る說も舊い哲學である。又神を偉大にして尊いものとして人間を賤い

ものと考へて居るのも舊い哲學である。これ等の說の行はるる間は眞のデモクラシーは行はれないのである。

新しい哲學の見方はさうでない。人間といふものはつまり慾の塊である。卽ち Wants 又は needs が根本の力であり、その爲めに生きて居るといつて差支はないであらう。所謂慾は二つである。卽ち(一)は自分の體を維持する本能、(二)自分の子孫を保持する本能、木石ならぬ人間は結局經濟と家族制度より離れることは出來ぬ。此の本能なるものは活動性に富んで居る。それ故に進步するのである。動く活機は卽ち本能である。禪宗の坊さんは只悟りを開くと云ふが悟つた丈では何も出來ぬ皆の者が悟つたばかりでは國家はどうなるであらうか。國家社會は進步發展のためには活動しなければならぬ。活動の原動力は慾である。

然らば此の慾には智惠がないかといふとたゞに盲目的のものではなく直覺である。本能にも直覺のあるといふことを忘れてはならぬ。卽ち知力とは本能が障碍物にぶつつかつた時に起るのである障碍物に出逢うて後、先きを考へる、そこで思慮や分別も出來るのである。知力の價値は單なる空理空論ではなくて實際に合はねばならぬ。眞理の眞理たる所は實際に適するものでなければならぬ。

今後の幼稚園はフ氏の貴族的理想的のものではいかぬ。それより一變し佛國のベルグソン氏の哲學に置き變らねばならぬ過度期ではあるまいか。ベルグソンの哲學の他と違つて居る點が三つあるその一は、宗教をといて居らぬ、二、唯心論とも違ふ、三、科學とも違ふ。今までいつて來たフレーベル氏やモンテツソツリー氏も此處までいつて居らぬ。卽ちベルグソンの哲學を根據にして幼稚園をとく人は今迄東西ともにないが、自分はかねて幼稚園の教育も在來のフ氏の哲學がベルグソンの哲學におき代はらねばならないであらうといふことを考へて居た。

そこで西洋にも隱れた所には隨分自分と同じ考の人があるに違ひないと思つて居たが丁度私が此講演をするに就て注文した書籍の中に H. E. Hunt といふ人の Psychology of Auto-education (1912) と云ふ小冊子があつて、自育の心理と云ひ、表題が面白い上に、それには「ベルグワンの『創道的進化論』中に與へられた智力の說明に基つきて」長い小書が附いて居るか、その內容の餘りに貧弱なので實は落膽したのである。彼の云ふ所に依ると敎育といふものは結局物の關係を知らせることである而してその關係には六つあるといつて居る。

一、時、　二、場所、　三、同、
四、異、　五、特殊と普遍、　六、原因結果、

以上の如き六つの關係をといて居る。か、ベルグフレの智力論の代に、本能論を何故取らないのか氣が知れぬ。これが眞に羊頭狗肉である。從つて幼稚園敎育をベルグソン哲學で以て改造しやうと云ふのは、憚りある申條ながら只今迄の所では斯く言ふ拙者で厶る呵々。

＊　＊　＊

因にベルグソンの哲學は早稻田大學出版の金子馬治氏外一名合譯の『創造的進化』を一讀せんことを勸める。又警醒社出版の錦田義富氏の『ベルグソン哲學』も入門としては好い。（文責在筆者神戸幼稚園志賀末子）

○みどり會々報

東京女子高等師範學校保育實習科卒業生より成るみどり會は既に會員百餘名に達し、その多くは全國各地の幼稚園に於て青英に力をつくし居らるゝ事なるが、此程有志の發起に依り、同會々報刊行の企あり、目下各方面に準備中にて、其第一號は七月中には發刊の運びに至るべしと。

コドモ

本誌は最も平易な、最も教育的な子供繪雜誌たるべく苦心して居ります

編輯顧問 高嶋平三郎先生

幼年雜誌 良友

本誌はコドモの兄樣姉樣に當り、小學生の讀物として最も適當な雜誌です

近來子供雜誌や繪本類が非常に多くなつて、既に二三十種に達してゐる。

世の父兄諸氏は、この多くの同種中、はたして何れを子弟の爲に選ばるゝであらうか單に玩具と見做して、その選擇を慢然兒童の取捨に一任して置いてよいであらうか。

發行所 東京市小石川區林町五十七番地 コドモ社 電話 小石川 六一二九二 八一二

幼稚園用品製造販賣

東京九段　フレーベル館

電話番町二九〇九

振替東京一九六四〇

◎定價表出來仕候間御入用の方は御申し越し被下度候

但郵税貳錢御送付のこと

明治三十四年一月廿八日第三種郵便物認可（毎月一回一日發行）

幼兒教育　第十九卷第七號　大正八年六月廿八日納本　大正八年七月一日發行

印刷所　凸版印刷株式會社本所分工場